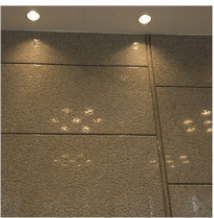


1  
月17日

## 閃光が走り 地面が割れた



### ■ リスクコンサルティング

商品開発部門に異動して3年が過ぎた。本店勤務にもすっかり慣れて、丸の内界限はもう庭も同然。煉瓦造りの重厚な本店ビルは、この辺りでも長い歴史を誇り、内部には建設当時を偲ばせる調度品も数多く残されている。

そんな本店の一室で、損害サービスのスペシャリストである先輩と話す機会があった。損害サービスは、お客さまに事故などが起こったときに保険金の支払業務を行っている部門である。それだけにお客さまとの接点が多く、商品開発にとって貴重なアイデアの宝庫となっている。

外は1月にしては珍しくかなりの強風で、ミーティングルームの窓を叩きつけるように激しい雨が降っていた。損害保険会社の社員は、風の強い日はどうもそわそわして落ち着かない。台風などによる風災は、進路



や規模によっては災害が広域にわたる可能性が高いからだ。風には誰もが敏感になる。

「台風じゃないから、この程度なら大丈夫だろう」

先輩はそう言いながらも、始終目を外へと向けていた。災害の規模によつては、応援部隊がその地域に派遣され、損害サービスを速やかに提供できるようにバックアップする。

「台風の進路と規模によって、どこにどれぐらいの被害が想定されるのかを考え、全国の支援体制を直ちに整備して被害地域に派遣するのが我々の仕事のひとつだからね」

損害サービス部門で行うリスク時のバックアップに加え、グループ会社